

ドイツ学術情報 (2011 年 7 月～9 月)

< 目 次 >

- 1 ピックアップニュース …p1
 - ①連邦教育研究省 2012 年度予算案
 - ②ノルトライン・ヴェストファーレン州、大学予算は予算削減措置の対象外に
 - ③フンボルト財団の給費生はドイツを肯定的に評価
- 2 その他のニュース …p5
 - ①学部学生の 20 人に 1 人が外国の大学の修士課程に進学
 - ②学術界と経済界の新しい連携モデル
 - ③出身家庭による大学進学率の差
 - ④連邦教育研究省は新しいベルリン事務所の建設を予定
 - ⑤ドイツの大学が EU 近隣地域の高等教育システムの近代化を支援
 - ⑥10 周年を迎えた「TestDaf(テスト・ダフ:外国語としてのドイツ語試験)」
 - ⑦大学での継続教育への新たな道
 - ⑧5 つの大学が「国際的な大学」賞の最終審査に

1 ピックアップニュース

①連邦教育研究省 2012 年度予算案

連邦教育研究省(BMBF)の 2012 年度(2012.1.1-2012.12.31)予算は 2011 年度比で約 10%増の 128 億ユーロという記録的な水準にまで上昇した。これは、7 月 6 日に閣議決定された 2012 年度連邦予算の政府原案により明らかになった。

ドイツの学術が、様々な困難に対応できるようにするために、「大学協定 2020」「エクセレンス・イニシアティブ」「研究とイノベーションのための協定」の 3 つのイニシアティブに特に重点を置いている。

大学進学前の学校の修学年限が 1 年短縮されることと兵役の廃止により、大学新規入学者が一時的に大幅に増加しているが、追加で必要となる学籍枠を確保するために、大学協定の枠組みの中で、大学には 11 億ユーロの予算が配分されることになる。その枠組みの中の「大学教育の質改善に関する協定」では、より良い学修環境と教育のさらなる質改善に対して 1 億 7,500 万ユーロが充てられる。

大学における研究は、エクセレンス・イニシアティブ(3 億 800 万ユーロ)と大学協定の枠組みの中の(3 億 1,900 万ユーロ)で、さらに強化される。大規模な大学外研究施設とドイツ研究振興協会(DFG)への機関補助金も 2012 年度には 5%増加し、合計で約 43 億ユーロまで上昇している。

プロジェクト支援の資金による「ハイテク戦略」の下で、イノベーションと成長促進への取り組みが支援される。ドイツは、気候/エネルギー、健康/栄養、モビリティ、安全、通信といった分野での世界的な課題解決において先駆者となるべきであると BMBF は考えている。その一例は、糖尿病や高血圧といった国民病の予防法や治療法を改善するために、2015 年までのその設立に 7 億ユーロが見込まれている「ドイツ健康研究センター」である。

BMBF のシャヴァーン大臣は、「連邦政府は政治的な重点を、意識的に教育と研究に置いている。この戦略のおかげでドイツが強化されていることが、世界中の経済、金融危機からも明らかになっている。頭脳に対する投資が、存在する可能性を呼び起こし、発展につながる唯一の道である。ドイツのように資源の乏しい国においてはまさに、これらの投資は将来に対して生死に直結する重要なものである」と述べている。

連邦教育研究省(BMBF)2012 年度予算案(2011 年 7 月 6 日現在政府案)

助成の種類	2011 年度 見込み (100 万ユーロ)	2012 年度 政府予算案 (100 万ユーロ)	2012 年度対 2011 年度比 (%)
プロジェクト助成ー合計	4,595.730	5,381.055	17.1
重点			
ー学生及び研究者交流	110.010	131.060	19.1
ー英才助成	187.190	227.458	21.5
ー職業教育の刷新及び強化	138.884	170.200	22.5
ー経歴上の学習の強化	124.180	126.994	2.3
ーエクセレンス・イニシアティブによる大学のトップ への支援	326.500	308.475	-5.5※
ー大学協定 2020	910.232	1,459.959	60.4
ー教育と研究における女性の機会均等の徹底化 戦略	23.000	23.000	0.0
ー高等教育システムと学術システムの開発	191.580	237.680	24.1
ー精神科学、社会科学、アカデミープログラム	83.390	99.269	19.0
ーEU 研究教育圏におけるドイツの他国との協力 及び強化	62.340	74.467	19.5
ー新しいコンセプトと地域助成(ハイテク戦略の 枠組みのツール、旧東独諸州のイノベーション 助成、専門大学支援)	314.348	334.200	6.3
ー生命科学、気候、エネルギー、環境、新しい技 術分野の助成	1,633.392	1,629.094	-0.3

ー自然科学の基礎研究	182.000	277.073	52.2
機関助成ー合計	4,144.889	4,428.132	6.8
ヘルムホルツ協会 (HGF)、ドイツ研究振興協会 (DFG)、マックス・プランク協会 (MPG)、フラウンホーファー研究機構 (FhG)、連邦農業食糧庁 (BLE)、連邦職業教育研究所 (BIBB)、その他の機関			
国際貢献	265.342	282.829	6.6
欧州原子核研究機構 (CERN)、欧州天文学研究機構 (ESO)、欧州シンクロtron放射機関 (ESRF)、ラウエラングヴァン研究所 (ILL)、欧州分子生物学研究所/欧州分子生物学機構 (EMBL/EMBC) その他欧州及び国際学術機関			
特別助成ー合計	2,765.400	2,857.289	3.3
国内奨学金プログラム、キャリアアップのための継続教育、連邦教育促進法に基づく奨学金 (BAföG)、大学における超地域的な研究支援、大学建設共同事業廃止の為の補償資金、旧東独諸州における職能向上研修ポスト特別プログラム			
省内経費(年金保障を含む)	105.302	118.858	12.9
計(上限)	11,646.033	12,804.372	9.9

※エクセレンス・イニシアティブの第 1 期と第 2 期の間の段階で一時的に減額となったもの。

(参考資料)

BMBF HP (<http://www.bmbf.de/press/3121.php>)

②ノルトライン・ヴェストファーレン州、大学予算は予算削減措置の対象外に

ノルトライン・ヴェストファーレン州の大学は、州予算の引き締め措置により予算が削られる可能性もあったが、最終的に大学予算は予算削減措置の対象外となった。州政府はそれを大学と専門大学に確約した。2015 年まで大学と大学病院は運営費交付金を年間で少なくとも 45 億ユーロ支給される。州政府首相 ハネローレ・クラフト氏 (社会民主党) と大学長たちが、7 月 5 日にデュッセルドルフでそのような取り決めに署名した。これはノルトライン・ヴェストファーレン州における学問と研究にとって肯定的なシグナルだとクラフト氏は明言した。財務大臣 ノルベルト・ヴァルター・ボルヤンス氏 (社会民主党) が支

出の差し止めや全体的に支出を減らす決定を下したとしても、大学には適用されないことになっていると述べた。社会民主党と緑の党の連立政権は、大学病院への運営費交付金を増やすことにしている。

州大学長会議の会長 ウアズラ・ガター氏はその取り決めに肯定的に評価した。それにより、大学も安心して計画が立てられるようになり、それは不可欠であるとガター氏は言う。また、専門大学の学長たちも、その取り決めに大学は安心して計画が立てられるようになるし、今回も大幅な予算の削減から免かれたと胸をなでおろした。

(参考資料)

dpa-Dossier Bildung Forschung Nr. 28/2011 11.Juli 2011

③フンボルト財団の給費生はドイツを肯定的に評価

アレキサンダー・フォン・フンボルト財団の給費生の大多数はドイツを肯定的に評価している。うち 91%はドイツ滞在を延長したいと考えている。延長を望まなかったのは 3%にも満たなかった。フンボルト財団が 6 月 27 日に発表したアンケートによると、ドイツの研究所の設備と雰囲気が非常に良いという評価を受けたという。批判を受けたのは、多くの自治体で子どもの面倒を見てくれる施設に空きがないこと、厳しい住宅事情、外国人にとっては時々面倒な官僚主義などところであった。

「ドイツ 2011 年の展望」というケーススタディにおいて、外国人研究者がドイツをどのように見ているかを調べるため、アレキサンダー・フォン・フンボルト財団はその給費生及び給費生のドイツ側研究協力者の経験報告を分析した。その際、2007 年から 2010 年の間に給費を受けた、世界 90 カ国からの 1,700 名の学者、及び 1,200 名以上の受け入れ側のアンケート結果を評価した。

明らかになったことは、論文の共同発表や共同研究を通して、給費生にとってもドイツの受け入れ研究者側にとっても、同じ程度にプラスになったということである。それを個人的にフンボルト財団に伝える研究者もいた。このように、1 年から 1 年半のドイツ滞在は多くの場合、給費生にとって、その後のキャリアにプラスとなり、ドイツの受け入れ側との国際的なつながりも強化することになった、とフンボルト財団は述べた。

さらにフンボルト財団は、給費生に受け入れ側に仲間として溶け込んでもらうことが連携の成功の鍵となることを、アンケート結果により明らかになったと述べた。また、ドイツ語の重要性が減り、その代わりに、英語が学術共通語として、フンボルト財団の給費生の中でも重要性を増してきているので、それも連携の成功に一役買っているとのことである。

メルケル首相(キリスト教民主党)は、6 月 27 日にベルリン自由大学で開かれたフンボルト財団の年次総会で次のように述べ、フンボルト財団の給費生がドイツにとって重要であることを強調している

「政治的決定を下す際、学問が重要である。賢明な対処をするためには学問が必要だ。フンボルト財団はアイデアが湧き出る泉だ。

学術においていつも優秀であることを目指してきた。学問は自由でなければならない。それもあってドイツ連邦政府は、エクセレンス・イニシアティブ制度において研究を助成することを決議した。しかし、同

時に基礎研究も疎かにされてはならない。なぜなら、早く経済的利用が可能な研究が望まれているなか、何が正しくて、何が重要なのか、学問がそれに答えてくるといふ、学問に対する基本的な信頼を裏切ってはならないからである。

ドイツは研究において、中国、インドのような国々とますます競争しなければならなくなっている。また、他の国も知識欲を持ってきており、学術に多額の予算を投資している。ドイツにとって一番重要な人材は賢くて知識豊富な人たちである。それは、平均して高齢者が増えている国には特に言えることである。そのような国では人々の経験を学問と繋げるということが重要になってくる。それ以外にも、若い人に自然科学に対する知識欲を呼び起こしたいと思う。」

(参考資料)

dpa-Dossier Bildung Forschung Nr. 27/2011 04.Juli 2011

2 その他のニュース

①学部学生の 20 人に 1 人が外国の大学の修士課程に進学 (28 July 2011)

ドイツの大学での学修と研究の国際化を示す数値が、最近刊行されたデータ報告書“Wissenschaft weltoffen 2011“(学問は世界に開かれている)に収録されている。これは、ドイツ学術交流会 (DAAD) と大学情報システム大学研究所 (HIS-HF) による共同発行である。

2009 年度は、2,500 人から 3,500 人のドイツの学部学生が卒業後に外国の大学に進学している。これは、大学では 5%、専門大学では 3%に相当する。今後 2、3 年間は学生数が増加することが見込まれるため、このような傾向が今後も続くのであれば、1 年当たり 1 万 1,000 人の学部学生がドイツの大学を卒業後、外国の大学の修士課程に進学することになる。特に経済学や社会科学の分野で外国の修士課程に進学する学部学生が多く、工学の分野では比較的少ない。

留学目的でドイツに来る外国人の数も増え続けている。2010 年度は 18 万 1,000 人の外国人がドイツの大学への学籍登録をした。ほぼ 10 人に 1 人の大学生が、外国で大学入学資格を取得した外国人ということになる。新規大学入学者についてだけを見ると、2009 年度は 6 万 1,000 人の外国人が学籍登録をしている。これは過去にない大きな数字であり、留学生の数は今後も増加することが見込まれる。国別では、中国、ロシア、ポーランド、ブルガリアといった、東アジアや東欧からの留学生が多いが、オーストリアやフランスといった西欧の国でもドイツへの留学に関心が高まっている。さらに、大学入学前にもドイツの学校に通っていた、その多くが移民の子どもである外国人で、ドイツの大学で勉強している者の数は、2010 年度は 6 万 3,500 人であった。とりわけ多くの留学生が、工学を専攻している。

“Wissenschaft weltoffen“は毎年発行され、<http://www.wissenschaft-weltoffen.de/> から参照することができる。2011 年度版は、<http://www.wissenschaft-weltoffen.de/publikation> から PDF 形式でダウンロードすることができ、いずれもドイツ語版のみでなく、英語版もある。

DAAD HP (<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2011/18029.de.html>)

②学術界と経済界の新しい連携モデル (16 Aug 2011)

技術革新が生まれるのは、とりわけ学術界と企業との専門知識が会う時であり、そのため連邦政府はハイテク戦略の枠組みの中で、学術界と経済界の連携を支援している。連邦教育研究省(BMBF)は、新しい助成制度「研究キャンパス—技術革新のための官・民連携」により、大学や研究機関と企業との中長期的な連携を促進することとした。

この助成制度のねらいは、ひとつの屋根の下に研究成果がより早く新しい製品に移行できるような、新しい構造をつくることである。これは、応用を目的とした基礎研究における戦略的な協力を目指している。

この助成金は競争的資金であり、BMBFは高位の有識者から成る審査委員会の関与の下に、10件の研究キャンパスモデルを選出することになる。助成金の額は1件当たり年間100万から200万ユーロで、助成期間は5年から15年である。技術革新の期待がかけられそうで、関係者全員に利益になるような申請書が採択されることになっている。応募の締切は2012年2月15日である。

BMBFのシャヴァーン大臣は、「この競争は、ドイツにおける新しいタイプの研究拠点、技術革新拠点の構築を促進するためのものである。企業に学術と研究に直接関与するように呼びかけることで、われわれの技術革新の文化を強化するつもりだ」と述べた。

BMBF HP (<http://www.bmbf.de/press/3140.php>)

③出身家庭による大学進学率の差 (08 Aug 2011)

昨年、44万1,800人の若者が大学に入学した。これは、この年齢層の46%に当たり、ドイツにとっては記録的な数字である。一体、どのような動機付けと各人の意思決定過程が若者を大学進学へと向かわせているのか？それについて、大学情報システム社が連邦教育研究省(BMBF)の助成金により実施し、新たに発表した調査で明らかにされている。

この調査のために、2010年度に大学進学資格を有する3万人の生徒に対し、学校卒業約半年前に進路計画についてのアンケートが行われた。調査対象者の55%が、すでにこの時期までに大学進学の意味をほぼ固めており、22%が大学進学を検討していた。21%のみが、大学教育を受けないとはっきり決めていた。大学進学を選択肢のひとつとしている生徒の割合は、この2年間で5%上昇したことになる。

大学進学資格を有する者の内、親が大学を卒業していない家庭出身者の大学進学希望割合が特に上昇している(7%の上昇)。調査された者の内、親が大学を卒業していない家庭出身者よりも、親が大学を卒業している家庭出身者の方が、依然として大学進学率は高い(前者72%、後者82%)が、出身家庭による差は目に見えて少なくなっている。(※ただし、ドイツでは卒業試験により大学進学資格を得ることができる中等教育機関と、得ることができない中等教育機関が存在し、小学校卒業後は親が大学を卒業していない家庭出身者は後者に進学することも多い。)

BMBF のシャヴァーン大臣は、「専門職業人が不足している中、これは我が国の将来の能力に対して励みになるサインである。今年度、進学希望者が増加する中で、大学協定は大学が必要とされる学籍を確保するための計画を保証している」と強調している。

調査結果は次の URL より閲覧することができる(ドイツ語)。

http://www.his.de/pdf/pub_fh/fh-201114.pdf

BMBF HP (<http://www.bmbf.de/press/3138.php>)

④連邦教育研究省は新しいベルリン事務所の建設を予定(04 Aug 2011)

現在、連邦教育研究省(BMBF)はベルリンに3つの事務所を持ち、職員は3ヶ所に分かれて働いている。事務室の数は約 350 室である(※多くの職員は個室で勤務している)。3つの事務所を統合し、長期的に同じ建物の中で仕事ができるように、新しい事務所が建てられることになった。新しい建物は敷地面積約 5 万 4,000 平方メートルで、建設予定地はベルリン中央駅の東にあるカペレウファー(Kapelle-Ufer)に面する首相官邸と連邦議会議事堂の向かい側で、2014 年の移転を目指している。建設は 2012 年の初頭から始められる。

BMBF が利用しない部屋は、ドイツ連邦不動産公社により、他に賃貸されることになる。これにより、ドイツで初めて公共機関と民間企業の提携によるドイツ連邦の庁舎が建設され、経営されることになる。新事務所建設のために取られた業務委託の方法だと公共と民間が提携するが、それが質の向上と費用の削減に大きく貢献するということが明らかになっており、この方法により 30 年の契約期間内で 2,800 万ユーロ以上の費用が削減することができるという。また、新しい建物は建物付属設備により、連邦が掲げるエネルギー及び気候保全の目標達成のために必要な持続性とエネルギー効率への要請を模範的に満たしているという。

BMBF の本部がこれまでどおりボンに置かれるということに変更はない。BMBF の職員の内 75% がボンの本部で勤務している。

BMBF HP (<http://www.bmbf.de/press/3137.php>)

⑤ドイツの大学が EU 近隣地域の高等教育システムの近代化を支援(08 Aug 2011)

EU のプログラムである「Tempus」は、1990 年以来 EU 近隣地域の高等教育システムの近代化を支援している。現在進行中の第 4 期計画段階(2007 年-2013 年)においても、ドイツの大学は最も積極的に関与している。選ばれた 63 の全プロジェクトの内、10 のプロジェクトをコーディネートし、15 のプロジェクトには共同運営者として参加している。これらの新しいプロジェクトに対して、計 5,200 万ユーロ以上が用意されている。Tempus 予算は次期公募のために、8,200 万ユーロ以上に引き上げられることになっている。

Tempus プロジェクトでは、例えば、教育計画や質保証システムを発展、近代化させる取組や、大学の労働市場への結びつきを強化したり、パートナー諸国において大学進学をよりしやすいものにするといった取組が行われている。Tempus のパートナー地域とは、東側近隣地域(東ヨーロッパとコーカサス地方)、南側近隣地域(北アフリカと中東)、中央アジアとバルカン半島西側である。ドイツが現在、特に強く関与しているのは東側近隣地域で、ドイツの大学がこの地域の 5 つのプロジェクトをコーディネートし、合計 11 のプロジェクトに関与している。

Tempus のドイツ事務局はボンに所在する DAAD 内に置かれている。同事務局は、ドイツの大学に対して申請手続きやプロジェクトの運営に関する助言を行っており、BMBF の財政支援の下に運営されている。2011 年 11 月 8,9 日に、Tempus 国際会議がシュトゥットガルトで開催され、次期公募についての情報が提供される。

次の URL から Tempus のニュースレター(ドイツ語)を申し込むことができる。

<http://eu.daad.de/eu/newsletter/17369.html>

DAAD HP (<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2011/18110.de.html>)

⑥10周年を迎えた「TestDaf(テスト・ダフ:外国語としてのドイツ語試験)」(12 Aug 2011)

ドイツの大学に入学するためには、外国人学生は十分なドイツ語能力があることを証明しなければならないが、そのための試験を世界中で統一した基準で実施するために、10 年前に DAAD のイニシアティブにより「TestDaf(テスト・ダフ:外国語としてのドイツ語試験)」が始められた。この試験は標準化され、世界中で受験することができ、ドイツのすべての大学で語学能力証明として認められている。2011 年 4 月には、世界中で 50 回目の TestDaf が実施された。この試験の成績優秀者に対する優秀賞授与式が 2011 年 8 月 23 日にボーフム大学で行われ、3 名の外国人学生が受賞した。

この試験は、TestDaf 研究所で準備、開発されている。2001 年 4 月の第 1 回受験者は 462 人の若者であったが、ちょうど 10 年後にあたる 2011 年 4 月の受験者は、3,236 人であり、毎年約 2 万人が受験している。

DAAD HP (<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2011/18137.de.html>)

⑦大学での継続教育への新たな道(26 Sep 2011)

家庭の事情で大学での学修を中断したり、就職後何年も経ってから大学で再度継続教育を受けたいという者にとって、数年前に比べると継続教育を受けることはより簡単になる。より多くの大学が継続教育の可能性を提供しているが、連邦教育研究省(BMBF)と欧州連合(EU)の支援による競争的資金「教育を通しての向上:開かれた大学」により、特に優れた計画を持つ 26 の大学が支援されることになった。専門職業人の創出を継続して保証すること、職業上と学業上の教育を双方向でより行き来しや

すいものにする、新しい学問的知識を早く実践に統合すること、これらのために革新的で、需要があり、永続的なコンセプトを持つ大学が支援される。

採択された大学は、職業に就いている者の支援や二元履修課程(大学で理論を学ぶのと並行して企業等で実践を学ぶ学修課程)、実践期間を含む履修課程等のための説得力のあるコンセプトを持っている。支援対象は特に、家族を持ちながら大学での学修を再開したい者、一旦仕事を辞め、再就職を希望する者、中途退学者、失業している大学卒業者、その他職業に就いている者(大学入学資格を持たない者を含む)である。

採択された大学は、最長で 3 年半支援される。連邦政府は「教育を通しての向上:開かれた大学」に対して、2011 年から 2020 年までに計 2 億 5,000 万ユーロを用意している。今回は 167 件の申請から 26 件が採択され、次の公募は 2014 年と見込まれている。

BMBF HP (<http://www.bmbf.de/press/3154.php>)

⑧5 つの大学が「国際的な大学」賞の最終審査に(15 Sep 2011)

ドイツ学術財団連盟とドイツ学術交流会(DAAD)は、「国際的な大学」賞の授与を行う。この賞は毎年、大学の国際化の観点に重点が置かれているが、今回は「教育分野での国際化の規模」というモットーの下に、教育分野での国際化を強化するための協定校との協力や学生のモビリティを高めることがテーマとなっていた。

28 件の応募があり、ブレーメン専門大学、ブランデンブルク工科大学コトブス、ゲッティンゲン大学、ザールラント大学、ヴァイマル大学、の 5 大学が最終審査に残っている。11 月 7 日にベルリンで、5 大学による公開プレゼンテーションが行われ、引き続いて授賞式が行われる。「国際的な大学」賞の賞金は 5 万ユーロである。

DAAD HP (<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2011/18437.de.html>)

ぼんぼん時計第 33 号
日本学術振興会ボン研究連絡センター
JSPS Bonn Office
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)
Phone +49 (0) 228-375050 Fax +49 (0) 228-957777
www.jsps-bonn.de